



今回は 探究活動を生かした進路実現 その9 の報告です。

◇ 山下総司さん（名古屋大学農学部）の体験記！

おもな活動記録

- ・2018年度 SEKI米粉倶楽部の活動開始
関市の未来・社会貢献プロジェクト 公認
- ・2019年度 全国高等学校家庭クラブ主催 ホームプロジェクト岐阜県最優秀賞
(2021年度全国大会出場決定)

私は、私自身が家庭クラブに所属していたため、SGH 課題研究では「食料自給率の増加」を主題に掲げ、家庭クラブの活動とも合わせて、米粉の普及に関わる研究活動を行いました。

家庭クラブでは、米の地産地消、持続可能な地域経済、水田をめぐる環境保全等のテーマを掲げ、研究活動や実践活動を行いました。活動を行うにあたって私たちは、農林水産省が食料自給率向上に向けて行っている国民運動「フード・アクション・ニッポン」の取り組みのひとつである「米粉倶楽部」の活動に参加することにしました。

私たち関高校家庭クラブは、「SEKI 米粉倶楽部」のチーム名で正式登録を申請し、消費者に米粉を広く知ってもらい、米粉の消費量の増大と食料自給率向上につなげることを目的に、高校生が着手できる活動をいろいろと話し合っって企画しました。

そのひとつが、学校祭での米粉カップケーキを販売です。おいしいケーキを作るために、調理学校のパティシエの先生に来ていただいてケーキづくりを学びました。猛暑の中、バターが溶けて比重が目標値にならず氷水で冷やすなど、過酷な条件でのケーキづくりでしたが、ふわふわのケーキを作ることができました。また、水田が洪水を防ぐ働きがあることについても学ぶことができました。私たちのこの活動は、実際に地元米ハツシモを使った米粉パスタを生産している市内の農業法人 PLUS、JA めぐみと連携した社会貢献事業として、関市より「関市の未来社会貢献プロジェクト」に公認されました。



こうした一連の活動を、全国高等学校家庭クラブ連盟主催のホームプロジェクト岐阜県大会で報告したところ、最優秀賞に選ばれ、来年8月、徳島県で行われる全国大会に出場することが決定しています。

さらに私たちは、米粉倶楽部の活動で得たデータや実績を、SGH 課題解決型研究に発展させて、食料自給率の現状や米粉の魅力などを調べてまとめ、「食糧自給と米粉普及に関わる現状と課題」について、全校の前で発表しました。

私は家庭クラブでもクラスでも、リーダー役を務めていました。はじめの頃は独断で動

いてしまいがちでしたが、活動の中で仲間との話し合いで新たな考えや意見の深まりを実感し、グループワークの重要性を身にしみて感じました。

また私は、自身の健康管理や部活動のトレーニングなどを通じて、以前から食に対する興味があったことがきっかけであったのですが、家庭クラブや SGH の活動を通して、その関心がさらに高まり、農学部に進んで、食を学び、食品開発者になりたいという目標が生まれました。



以前は就職における利点のみから、何となく工学部への進学を選んでいました。工学に対する興味もないため、自分の将来像が不透明でしたが、農学部に進学を決めてからは展望が開き、勉強に対する熱意も増しました。

SGH 活動は世界の諸問題に対する課題解決力を養うことはもちろんですが、私の場合のように将来への道標となるものでもあります。私は普通科高校である関高校で、勉強だけでなくこれだけ有意義な活動を行えたことをとても光榮に思います。